研究題目 無脊椎動物の標本データベースの作成 所属機関名 大阪市立自然史博物館 代表研究者氏名 山西 良平

### 1. 研究の進捗状況、成果の現状と今後の見込み(概要)

今回の提案課題では、国内の博物館等の機関が所蔵する無脊椎動物標本(昆虫を除く)の情報を電子化し、事実上の国際標準であるGBIFフォーマットに整形したデータを作成した。

### 1-1. 当初の計画

6 館あわせて計 47,200 件の収蔵標本のラベル情報を電子化し、GBIF フォーマットに整形することとした。

#### 1-2. 上記に対し、見直した点

各館が当初計画していた件数に満たないデータ源もあったが、一方で計画件数よりも多く整備できたデータ源もあり、最終的に今年度は当初見込みよりも約800件多い合計48,027件のデータを作成した。計画件数に満たなかった理由については、

- ・登録番号が重複しているなど元台帳の不備によりデータ入力に時間がかかった(西宮市貝類館)
- ・入力作業を効率化するため特定分類群(軟体動物)に集中して作業を行い、他の分類群(節足動物・ その他無脊椎動物)の入力作業を今年度は見送った(富山市科学博) などが挙げられる。

また、計画件数よりも大幅に多く整備できた理由は、

・当初予想していたよりも効率的に入力・同定作業が進んだ(和歌山県博) などが挙げられる。

#### 1-3. 今後の見込み

ほぼ計画どおりの実施を見込んでいる。平成 21 年度は約 45,000 件、平成 22 年度は約 49,000 件のデータを作成し、最終的に約 142,000 件のデータ作成を行う見込みである。なお、和歌山県立自然博物館の標本データ作成は今年度で完了し、当初見込みよりも 2,278 件多かったため、現時点での課題終了時のデータ数(予定)は同件数だけ多くなっている(計画時は 139,900 件、現時点では 142,178 件) <下表で下線を付した部分が訂正箇所>。

#### 2. 作成データについて

データの内容について大きな計画変更点はない。データ件数については上述のとおり。

生物	標本	標本	データ源	表	現在のデ	H20年度作	H20 年	H21 年	課題終了時
分野	所有	所有数		現	ータ数	成データ数	度作成デ	度作成デ	のデータ数
	機関	(概数)		形	(日本語、	(日本語、	ータ数	ータ数	(日本語、英
				式	英語)	英語)(予	(日本	(日本	語) (予定)
						定)	語、英語)	語、英語)	

							(実績)	(予定)	
								(1 1/1)	
軟体	大阪	10,000	一般標本	文	日本語:	日本語:	日本語:	日本語:	日本語:
動物	市立		(吉良哲	字	10,000 件	5,000 件	5,674 件	2,500 件	10,000 件
	自然		明二枚貝		英語 : 0	英語:5,000	英 語 :	英 語 :	英 語 :
	史博		コレクシ		件	件	5,674 件	2,500 件	10,000 件
	物館		ョン他)						
	富山	75,000	一般標本	文	日本語:	日本語:	日本語:	日本語:	日本語:
	市科		(宮本コ	字	75,000 件	25,000 件	26,109	25,000	75,000 件
	学博		レクショ		英語 : 0	英 語 :	件	件	英 語 :
	物館		ン他)		件	25,000 件	英 語 :	英 語 :	75,000 件
							26,109	25,000	
							件	件	
	和歌	3.700	一般標本	文	日本語:	日本語:	日本語:	日本語:0	日本語:
	山県		(池辺コ	字	3,700 件	3,700 件	5,428 件	件	<u>5,428件</u>
	立自		レクショ		英語 : 0	英語:3,700	英 語 :	英語:0	英 語 :
	然博		ン)		件	件	5,428 件	件	<u>5,428件</u>
	物館								
	西宮	15,000	一般標本	文	日本語:	日本語:	日本語:	日本語:	日本語:
	市貝		(黒田徳	字	15,000 件	5,000 件	4,050 件	5,000 件	15,000 件
	類館		米コレク		英語 : 0	英語:5,000	英 語 :	英 語 :	英 語 :
			ション)		件	件	4,050 件	5,000 件	15,000 件
	福井	14,000	一般標本	文	日本語:	日本語:	日本語:	日本語:	日本語:
	市自		(古川田	字	11,000 件	2,000 件	4,016 件	3,000 件	11,000 件
	然史		溝コレク		英語 : 0	英語:2,000	英 語 :	英 語 :	英 語 :
	博物		ション、		件	件	4,016 件	3,000 件	11,000 件
	館		鈴間愛作						
			コレクシ						
			ョン)						
節足	大 阪	3,000	一般標本	文	日本語:0	日本語:0	日本語:0	日本語:	日本語:
動物	市立			字	件	件	件	1,000 件	3,000 件
(主	自然				英語 : 0	英語:0件	英語:0	英語:	英 語 :
に甲	史 博				件		件	1,000 件	3,000 件
殼	物館								
類)	富山	14,000	一般標本	文	日本語:	日本語:	日本語:0	日本語:	日本語:
	市 科			字	14,000 件	4,000 件	件	4,000 件	14,000 件
	学 博				英語 : 0	英語:4,000	英語:0	英 語 :	英 語 :

	物館				件	件	件	4,000 件	14,000 件
	和歌	1,200	一般標本	文	日本語:	日本語:	日本語:	日本語:0	日 本 語 :
	山県	,	(永井カ	字	1,200 件	1,200 件	1,750 件	件	1, 750 件
	立自		ニ類コレ		英語 : 0	英語:1,200	英 語 :	英語:0	英 語 :
	然 博		ク ショ		件	件	1,750 件	件	<u>1,750件</u>
	物館		ン)						
	北九	3,000	一般標本	文	日本語:	日本語:	日本語:	日本語:	日本語:
	州市			字	3,000 件	1,000 件	1,000 件	1,000 件	3,000 件
	立自				英語 : 0	英語:1,000	英 語 :	英 語 :	英 語 :
	然 史				件	件	1,000 件	1,000 件	3,000 件
	博 物								
	館								
その	大 阪	3,000	一般標本	文	日本語:0	日本語:0	日本語:0	日本語:	日本語:
他無	市立		(小郷ウ	字	件	件	件	3,000 件	3,000 件
脊椎	自然		ミユリコ		英語 : 0	英語:0件	英語:0	英語 :	英 語 :
動物	史 博		レクショ		件		件	3,000 件	3,000 件
	物館		ン他)						
	富山	1,000	一般標本	文	日本語:	日本語:	日本語:0	日本語:	日本語:
	市科	-,	/	字	1,000 件	300 件	件	500 件	1,000 件
	学博				英語 : 0	英語:300	英語:0	英語:	英 語 :
	物館				件	件	件	500 件	1,000 件

(注) 実際の作業工程としては、すでに存在する日本語データ(「現在のデータ数」に含まれるもの)についても、GBIF フォーマットにあわせるための加工(産地データを国・都道府県・市町村などの要素にわけるなど)が必要であったため、今年度の「作成データ数」にはそれらの現存日本語データの数も含めている。

## 3. データ項目について

当初計画ではGBIFプロジェクトの標準項目(Darwin Core 2 又はABCD スキーマ)に対応した項目を整備することとしており、当初計画どおり実施した。

# 4. データのクオリティ・コントロールについて

【分類群情報について】基本的に台帳登録済みの収蔵標本を対象としたが、無脊椎動物は他の分類群に比べて同定が困難なものが多く、種レベルの同定が未了の標本が多く含まれていた。したがって、これらの標本は必要に応じて各分類群の専門家に同定を依頼した。今年度の同定依頼の概要は以下の通りである。

- ・和歌山県立自然博物館所蔵永井カニコレクション:武田正倫氏(帝京平成大学教授)に依頼、新規同定約30件、既同定種の再確認約800件。
- ・富山市科学博物館所蔵甲殼類標本: 奥野淳兒氏(千葉県立中央博物館上席研究員)に依頼、新規同定 646 件。
- ・富山市科学博物館所蔵多板類標本:齋藤寛氏(国立科学博物館研究主幹)に依頼、新規同定609件。
- ・大阪市立自然史博物館所蔵無脊椎動物標本: 林勇夫氏(京都大学名誉教授)に依頼、新規同定約300件。
- ・大阪市立自然史博物館所蔵無脊椎動物標本:幸塚久典氏(長崎ペンギン水族館職員)に依頼、新規同定約 100 件。

なお、上記同定標本データの一部は、他のデータ項目チェックの関係から、平成 21 年度以降に登録を行うこととした。

【古い地名等について】相当な知識を持つ人材に入力を依頼することで、クオリティコントロールを行った。

#### 5. 課題終了後の運用について

現在のところ GBIF プロジェクトは順調に進んでおり、データベースの運用は課題終了後も維持されると 予想される。

#### 6. 他機関、学会等との連携について

標本同定作業については、帝京平成大学、千葉県立中央博物館、国立科学博物館、長崎ペンギン水族館等の機関に協力を得て進めることができた。

### 7. 国内的・国際的寄与について

(単年度報告書では記載不要)

#### 8. データ公開について

#### 8-1. データ公開の問題点について

当初計画で見込まれた以外の大きな問題点は今のところ見いだされていない。なお、絶滅危惧種の取り扱いについては、次年度以降のワーキンググループで審議を行う予定である。

#### 8-2. システムの改修について

本課題には該当しない。

## 9. 推進体制

代表研究者	山西良平 大阪市立自然史博物館 館長
	全体の統括
参加研究者	山西良平 大阪市立自然史博物館 館長
(自機関・他機関を含む)	石田 惣 大阪市立自然史博物館動物研究室 学芸員
	データの入力管理 (軟体動物、その他無脊椎動物)
	布村 昇 富山市科学博物館 館長
	データの入力管理 (甲殻類、その他無脊椎動物)
	大谷洋子 西宮市貝類館 学芸員
	データの入力管理 (軟体動物)
	今原幸光 和歌山県立自然博物館 副館長
	データの入力管理 (甲殻類、その他無脊椎動物)
	梅田美由紀 福井市自然史博物館 学芸員
	データの入力管理 (軟体動物)
	下村通誉 北九州市立自然史・歴史博物館
	データの入力管理 (甲殻類)
雇用等を希望する	アルバイター 10名 (データ入力)
アルバイター等	その他 5名 (標本同定)
アドバイザリー委員会	なし
ワーキンググループ	あり

## 10. スケジュール

	H20 年度	H21 年度	H22 年度	
データ作成・入力			<b>-</b>	
	→ 同定作業	<b>───</b> 同定作業	□ □ 定作業	
試験公開 ※1				
	GBIF 日			
公開 ※1		GBIF 日本ノード	<b>-</b>	
その他 ※2	Δ Δ	Δ Δ	Δ Δ	
	会議(7月、12月)	会議(2回)	会議 (2回)	

試験公開が遅れる理由:現時点で今年度整備したデータはサーバへの登録が可能な状態だが、GBIF日本ノード側のサーバ登録作業の進捗によっては平成21年度にずれ込む可能性があるため。